

ソバの収量アップに向けた環境保全対策

1. そばの実り

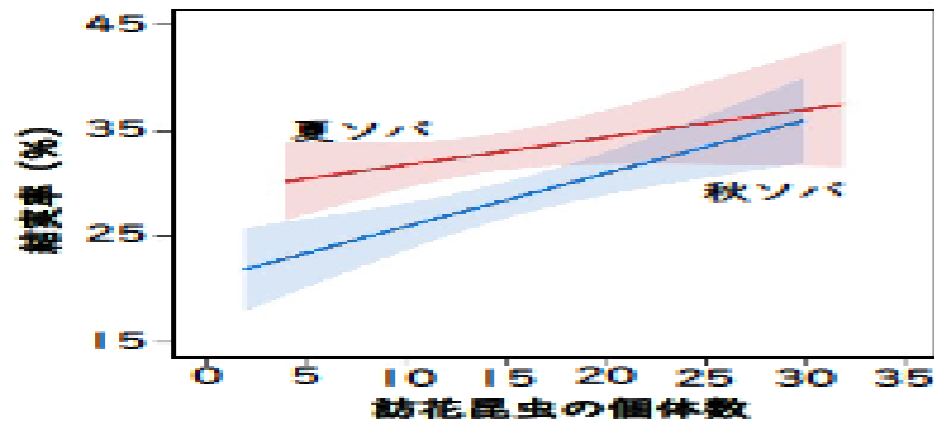
- ① そばは咲かせた花の30%以下しか実にならない。
 - ② その結実を助ける虫たちの働き
- ソバには2つのタイプの花があり、実をつけるには、別のタイプの花の花粉が運ばれる必要がある。
※(自家不和合性)

そのため、この花粉を運ぶ昆虫たちの働きが、ソバの収量に大きく関与する。

☆訪花昆虫☆

- チョウ目 モンキチョウ・ヒメアカタテハ・イチモンジセセリ・ミヤマシジミ他
- ハチ目 コマルハナバチ・キボシアシナガバチ・セイヨウミツバチ・クロヤマアリ他
- ハエ目 ナミハナアブ・キンバエ・シマハナアブ・ヒメヒラタアブ他
- 甲虫目 コアオハナムグリ・シロテンハナムグリ他

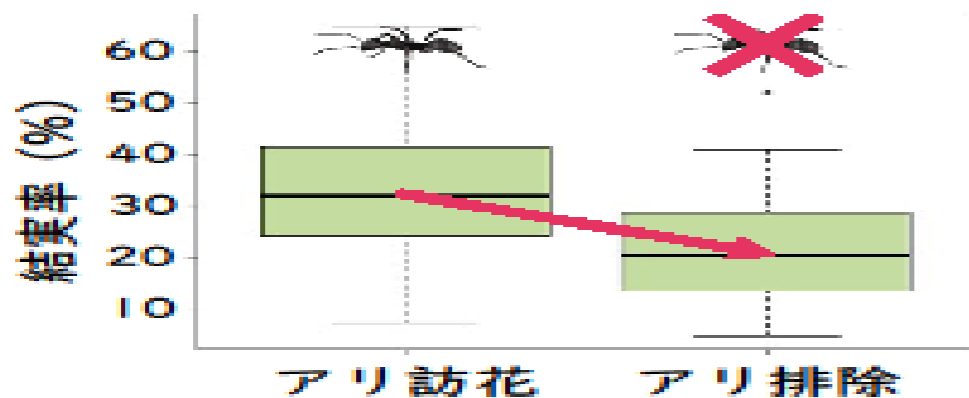
☆証拠① 花粉を運んでくれる訪花昆虫が多いとソバの実りも増加し、逆に訪花昆虫が減るとソバの実りも減少する、そのため、訪花昆虫を増やす自然環境が非常に重要である。



③訪花昆虫の中の働き者 <小さな働き者 アリ>

訪花昆虫の中でも、ハチにも負けず実りに貢献しているのが、アリになります。

●アリはそばの結実率を3割以上アップさせる実験結果が出ています。
実験でソバの株からアリを排除したところ、平均約3割収量が低下しました。



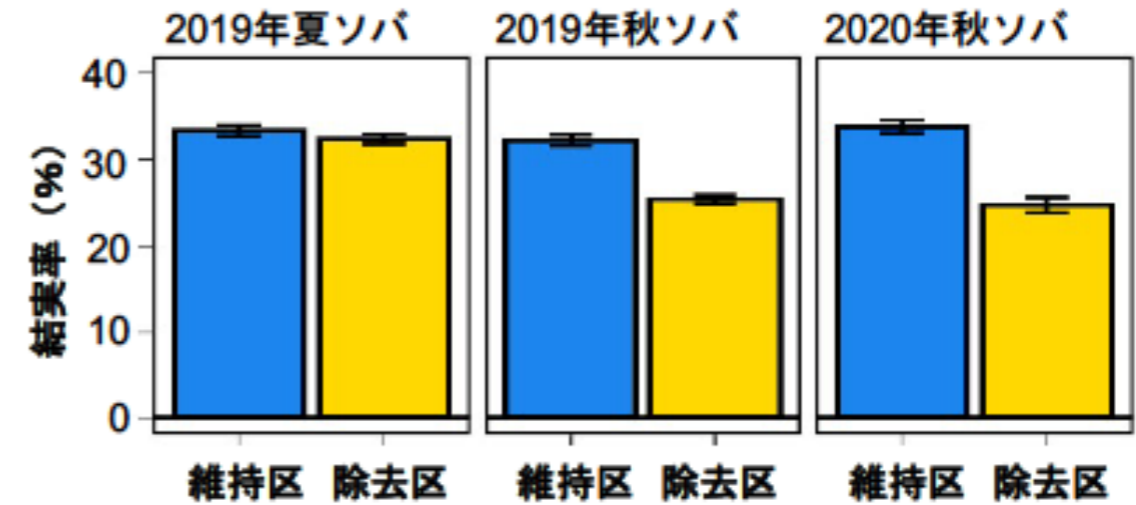
2. ソバ畑の周辺環境と送粉サービスの関係

- ① 畦畔の草刈管理は訪花昆虫に影響します、訪花昆虫は、昼間はソバの圃場に訪れ、夜は畦畔の植物で休憩することが、現地の調査で分かってきました。
(ミツバチなどの巣を持つ昆虫は除く)

3. そばの収量を上げる、畦畔の管理

2019年～2020年に行って試験結果から、「そばの播種から開花中に草刈を控えると結実率も増加」した結果が得られました。

☆証拠②



結果 そばの栽培に適した草刈のスケジュール

	5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
ソバの成長	播種			開花			収穫			播種			開花			収穫		
草刈り不適期	不適期						不適期											
従来の時期	田植え前			イネの害虫防除														
ソバ生産に適した時期	○						○						○					

ソバの栽培圃場では、水稻栽培時の草刈より、2回程度草刈を控えることで、収量の確保と管理の省力化が行えます。